

2020

1

This "SYMPHONIE FANTASTIQUE"  
was born this way...  
It all began when he saw  
"HAMLET"

Harriet Smithson  
as Ophelia

Hector Berlioz

Handwritten notes in Japanese, including the word "楽譜" (score).

Chie (4)

## 目次

2020年 1月  
January 2020

プログラム	3
出演者プロフィール	4
楽曲紹介	6
特別寄稿 アンドレア・パッティストーニ 9月定期 歌劇『フランチェスカ・ダ・リミニ』によせて	10
Program	14
Artists Profile	15
Program Notes	17
Next Subscription Concerts	21
2月／3月の定期演奏会	22
2月定期 歌劇『カルメン』あらすじ	23
2月定期 歌劇『カルメン』の聴きどころ インタビュー マリーナ・コンパラート	24
News & Information	25
Photo Reports	26
2020シーズン 定期演奏会 ラインナップ	28
2019-20シーズン 午後のコンサート 今後のラインナップ	30
2020シーズン 午後のコンサート ラインナップ	31
賛助会	32
ご寄附・ご支援のお願い／チケットサービスより	35
東京フィルハーモニー交響楽団／楽団員一覧	39
理事・監事・事務局一覧	42

お願い： 演奏中はお手持ちの時計や電子機器のアラームが鳴らないようご注意ください。携帯電話、スマートフォン、タブレットなどの電子機器は電源をお切りくださいますようお願い申し上げます。

演奏中および楽章間の入退場は他のお客様のご迷惑にもなりますのでご注意ください。

Attention: Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during the performance.  
Late admittance will be refused during the live performance.

第130回東京オペラシティ定期シリーズ 終演予定20:50

1.23 (木) 19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール

第930回サントリー定期シリーズ 終演予定20:50

1.24 (金) 19:00開演 サントリーホール

第931回オーチャード定期演奏会 終演予定16:50

1.26 (日) 15:00開演 Bunkamura オーチャードホール

指揮：アンドレア・バッティストーニ

ピアノ：阪田知樹\*

コンサートマスター：依田真宣

1/23

1/24

1/26

ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第3番 二短調 Op. 30\* (約40分)

- I. アレグロ・マ・ノン・タント
- II. インテルメッツォ：アダージョ
- III. フィナーレ：アラ・ブレーベ

— 休憩 (約15分) —

ベルリオーズ：幻想交響曲 Op. 14 (約50分)

- I. 「夢—情熱」
- II. 「舞踏会」
- III. 「野の情景」
- IV. 「断頭台への行進」
- V. 「サバトの夜の夢」

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団  
 助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) |  
 独立行政法人 日本芸術文化振興会  
 協力：Bunkamura (1/26)



## 出演者プロフィール



©上野隆文

指揮

## アンドレア・バッティストーニ

Andrea Battistoni, conductor

東京フィルハーモニー交響楽団 首席指揮者

1987年ヴェローナ生まれ。国際的に頭角を現している同世代の最も重要な指揮者の一人と評されている。2013年ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場の首席客演指揮者、2016年10月東京フィル首席指揮者に就任。

『ナブッコ』、『リゴレット』（二期会）、グランドオペラ共同制作『アイダ』のほか、ローマ三部作、『展覧会の絵』『春の祭典』等数多くの管弦楽プログラムで東京フィルを指揮。東京フィルとのコンサート形式オペラ『トゥーランドット』（2015年）、『イリス（あやめ）』（2016年）、『メフィストーフェレ』（2018年）で批評家、聴衆の双方から音楽界を牽引するスターとしての評価を得た。同コンビで日本コロムビア株式会社よりCDのリリースを継続している。

スカラ座、フェニーチェ劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、スウェーデン王立歌劇場、アリーナ・ディ・ヴェローナ、バイエルン国立歌劇場、マリンスキー劇場、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管、イスラエル・フィル等世界の主要歌劇場・オーケストラと共演を重ねている。2017年には初の著書『マエストロ・バッティストーニの ぼくたちのクラシック音楽』（音楽之友社）を刊行。



©HIDEKI NAMAI

ピアノ

## 阪田知樹

Tomoki Sakata, piano

1993年名古屋市生まれ、横浜市・ハノーファー在住。5歳よりピアノを始め、西川秀人、渡辺健二、パウル・バドゥラ＝スコダ、アリエ・ヴァルデイの各氏に師事。6歳より作曲を始め、音楽理論・作曲を高橋千佳子、永富正之、松本日之春の各氏に師事。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻を経て、ハノーファー音楽演劇メディア大学に特別首席入学を果たし、現在、同大学ソリスト課程ピアノ科に在籍。19歳で第14回ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールにて最年少入賞。2016年フランス・リスト国際ピアノコンクール(ハンガリー・ブダペスト)第1位、併せて6つの特別賞受賞。コンクール史上、アジア人男性として初の優勝を果たす。第35回ピティナ・ピアノコンペティション特級グランプリ、及び聴衆賞等5つの特別賞、クリーヴランド国際ピアノコンクールにてモーツァルト演奏における特別賞受賞。国内外問わず数多くの指揮者、オーケストラと共演を重ねるほか、室内楽奏者としても活躍している。2015年4月、リスト・ショパン・ドビュッシー・スクリャービンを収録したデビューCDアルバムをリリース。公益財団法人江副記念リクルート財団奨学生、公益財団法人ロームミュージックファンデーション奨学生。2017年横浜文化賞文化・芸術奨励賞受賞。

## 楽曲紹介

解説=野本由紀夫

ラフマニノフ (1873-1943)

### ピアノ協奏曲第3番 二短調 Op.30

1/23

1/24

1/26

ロシア生まれの作曲家、ピアニスト、指揮者だったセルゲイ・ラフマニノフ (1873-1943) のピアノ協奏曲。第3番は、第2番と並んで人気の曲である。

1909年の夏(36歳)、同年秋に予定されていたアメリカでの演奏旅行で初演するために作曲された。ラフマニノフはソリストを務めることになっていたが、この曲のソロ・パートを、ロシアからニューヨークまでの船旅中に、音の出ない鍵盤を使って練習しながら、短時間のうちに覚え込んだという。

**第1楽章** ソナタ形式の楽章。冒頭、ピアノで演奏される第1主題は、ロシア正教会の聖歌から採られたともいわれる。このメロディは、少しずつ形を変えて、他の楽章にも登場する。やがて、甘美な第2主題となるが、こちらも全楽章に登場する。ピアノのカデンツァはかなり長く、独奏者の腕の見せ所となっている。

**第2楽章** 変奏曲風のアダージョ楽章。冒頭のオーボエによる憂いをおびた主題は、短調の激しい部分でも、形を変えずそのまま登場する。大音響の陰では、ヴァイオリンによって第1楽章の第1主題も隠れるように登場している。ピアノから移行部となり、切れ目なくそのまま第3楽章へと入る。

**第3楽章** 行進曲風のリズムに導かれた、ソナタ形式の楽章。ピアノ・パートはかなりの超絶技巧である。展開部では、ヴィオラとチェロによって、第1楽章の第1主題の変形が登場し、その直後には同じく第2主題の変形がピアノによって優美に歌われる。その後、第2主題が情感をこめて歌われ、最後はエネルギーに閉じられる。

【作曲年代】1909年 【初演】1909年11月28日 ニューヨークにて、作曲者自身によるピアノ、ウォルター・ダムロッシュ指揮(翌年の再演は、ラフマニノフのピアノ、グスタフ・マーラー指揮で)

【楽器編成】フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器(小太鼓、大太鼓、シンバル)、弦楽5部、独奏ピアノ

## ベルリオーズ(1803-1869) 幻想交響曲 Op.14

1/23

1/24

1/26

27歳になる1830年、ベルリオーズはフランスの名門作曲賞である「ローマ大賞」を受賞。ようやく新進作曲家として認められた。その記念すべき年に書いたさらなる成功作が、この『幻想交響曲』である。

この交響曲の正式のタイトルは、『ある芸術家の生涯におけるエピソード：5楽章からなる幻想交響曲』という。この曲の標題はあとから付けられており、ストーリーに沿って作曲した曲ではない。むしろ逆に、音楽に合うように4回も書き換えられた。

ベルリオーズが演奏会で配布した標題(楽曲解説)によれば、この曲のイメージは「失恋した若い芸術家が、アヘン(麻薬)を飲んで自殺を図ったが、致死量に達しなかったために死にきれず、奇怪な幻夢を見る」というもの。「若い芸術家」とはベルリオーズ自身、「恋人」とはイギリスのシェークスピア劇団の看板女優ハリエット・スミソンのことだ。

彼は1827年9月11日のパリ公演を見に行き彼女に一目ぼれ、その失恋から作曲……かと思うと、事実はそうではなかった。ベルリオーズは、国際派女優の知名度を利用して、この新しい交響曲のプロモーションを行ったらしい。

初演された1830年12月5日といえば、当時の「音楽の神様」ベートーヴェン(1770-1827)が死んでたった3年しかたっていない。「軍楽隊の楽器」やハープなど、多彩な楽器が取り入れており、当時さうとう過激で斬新な音楽に聴こえたとはいえない。

**第1楽章「夢一情熱」** 作曲者の解説文は以下、太字で示そう。「恋人に出会うまで、彼は倦怠感や、漠然とした魂の渇き、憂鬱、当てのない喜びを感じていた」。ここまでが、序奏だ。

「それから彼女によって呼び覚まされた猛烈な愛、錯乱した苦悩、やさしさへの回帰、宗教的な慰めが起こる」。打撃音のあと、ヴァイオリンとフルートだ

1/23

1/24

1/26

けで呈示されるのが「恋人の主題」である。このメロディを「固定楽想(イデー・フィクス)」と呼ぶ。これが、すべての楽章を通じてさまざまにアレンジされることで、恋人に対して主人公がどのような立ち位置にいて、どのような心境なのかが感じ取れる。

**第2楽章「舞踏会」** ワルツの楽章。ハープが2台も使われたのは、画期的だった。「舞踏会するとき、喧騒と華やかなお祭り騒ぎのなかに、彼は再び恋人を見出す」。中間部に「恋人の主題」が木管楽器で現れる。最後にクラリネットによる「恋人」が現れたと思うと、熱狂的に盛り上がって、舞踏会は閉じられる。

**第3楽章「野の情景」** アダージョの緩徐楽章。「田舎の夏の夕方、彼は遠くで2人の羊飼いが笛でお互いに呼び合っているのを聴く」。ステージ上のイングリッシュ・ホルンと、舞台裏のオーボエによる、空間的な遠近法だ。この二重奏に気持ちを重ねて、「ほどなく[自分も]孤独ではなくなる」とつづく。「しかし、彼の恋人が再び心のなかに現れると、彼の心は千々に乱れ、暗い予感に襲われる」。恋人の主題が現れると、弦楽器が不気味な音楽を奏でる。最後は、「羊飼いのひとりだけが牧歌を吹く。日没。遠雷が聞こえる——孤独——静寂」。遠雷は、4人のティンパニ奏者によって演奏される、画期的なアイデア。

**第4楽章「断頭台への行進」** ステージに注目すると、3人のティンパニ奏者、4人のファゴット(!)、人数を2人ずつに4分割したコントラバス(!)、軍楽隊の金管楽器のホルネットと、宮廷オーケストラの金管楽器トランペットの同時使用、打楽器の多用など、斬新な楽器法にあふれた楽章。

「彼は恋人を殺した夢を見る。彼は死刑を宣告され、断頭台への行進を命じられる」。ちなみにこの楽章は、すでに1829年に作曲していたオペラ『宗教裁判官』の行進曲をまるまるリサイクルしたもの。標題(解説)のほうがあと付けなのは、明らかだ。

「行進曲のおわりに、彼女のことが一瞬脳裏をよぎるが、ギロチンの一刀両断とともについで」。フランス革命(1789年開始)からほどない時期のパリの聴衆にとっては、かなりエグイ音楽だったに違いない。

**第5楽章「サバトの夜の夢」**「悪夢」のつづきである。「彼は魔女の祝日——それは彼の埋葬でもある——に参加している。幽霊や魔法使い、ありとあらゆる魑魅魍魎<sup>ちみもうりょう</sup>に取り囲まれている。不気味な音、うなり声、嬌声、遠くからの叫び声、それに応える別の叫び声が聞こえる」。サバトとはヴァルプルギスの魔女の宴会のことで、4月30日から5月1日にかけての夜に行われる。

「恋人の旋律が聴こえてくるが、今やグロテスクで卑しい踊りになっている。彼女は悪魔の宴に加わる」。小クラリネットによって「恋人の主題」が姿を見せるが、下品な表情に変化している。彼女も化け物になっているのだろう。

「吊いの鐘、『怒りの日』のパロディが響く」。ここでは、しばしば本物の教会の鐘が用いられる。チューバなどで吹奏される『怒りの日(ディエス・イレ)』とは、グレゴリオ聖歌の「お葬式の賛歌」のことである。

「魔女の踊り。その踊りと『怒りの日』がひとつになる」。音楽がドンチャン騒ぎになっていくと、見事な盛り上がりを見せながら、一気に呵成に終幕を迎える。

【作曲年代】1830年 【初演】1830年12月5日 パリ音楽院ホールにて

【楽器編成】フルート2(2番はピッコロ持ち替え)、オーボエ2(2番はイングリッシュ・ホルン持ち替え)、クラリネット2(エス[E♭]・クラリネット持ち替え)、ファゴット4、ホルン4、トランペット4(トランペット2、コルネット2)、トロンボーン3、チューバ2、ティンパニ(2名)、打楽器(小太鼓、大太鼓、シンバル、鐘)、ハープ2、弦楽5部 【バンド】オーボエ

のもと・ゆきお(音楽学・指揮)／桐朋学園大学助教授を経て、玉川大学芸術学部教授。NHKテレビ「名曲探偵アマデウス」監修、同「ららら♪クラシック」の解説者、Eテレ学校番組「おんがくブラボー」番組委員。NHK-FMラジオ「オペラ・ファンタスティカ」レギュラー解説者。昨年末、日本テレビ「世界一受けたい授業2時間SP」の「第九」コーナーに、指揮者・先生としてスタジオ出演。



20世紀イタリアでプッチーニの後継と目され、確かな才能を發揮しながら歴史の渦に飲み込まれた不遇の作曲家リッカルド・ザンドナーイ。2017年『ジュリエッタとロメオ』、2019年『白雪姫』など彼の作品に光をあてることに情熱を注いできたバッティストーニが、今年9月定期では歌劇『フランチェスカ・ダ・リミニ』の演奏会形式上演を実現します。

## 「プッチーニの後継」と目された作曲家、ザンドナーイ

リッカルド・ザンドナーイは、20世紀のイタリア・オペラ界の展望において、ヴェルディの後に続く作曲家たちの —プッチーニのみを除いた— 大部分の人々と同じ運命をたどった。オペラ一作のみで記憶され、その作品は何十年かの間はレパートリーに残り録音もされたが、一部の評論家たちからも国際的な聴衆からも忘れられ、最近になってやっと、たくさんの留保をつけられながらも再評価されているのである。

この境遇は、ジョルダナーノの『アンドレア・シェニエ』、チレーアの『アドリアーナ・ルクヴール』などに共通しているし、彼らほどではないにしろ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』と『道化師』にも言えることだ。

今日において、ザンドナーイの『フランチェスカ・ダ・リミニ』は、いま言及したいいくつかの演目よりもさらに知られていないが、かつてはそれらと同じように大勢の聴衆に広く知られていた。ところがその後長い間、残酷な忘却の彼方に沈んでしまっていたのだ。だが若い頃のザンドナーイはティート・リコルディ（訳注：音楽出版社リコルディの社主）から、もっとも有力なプッチーニの後継者とみなされていたのである。トスカーナの巨匠（訳注：プッチーニ）と共通していたのは、完璧なテク

ニック、劇場的なセンスの天分に大変恵まれていたこと、オーケストラの音色についての深い知識があったこと、そして他国の作曲家たちの創造に好奇心を持ち、常にそれらをモデルにしていたことだ。彼のオペラの初期の作『コンキータ』（彼の前にはブッチェーニもこの台本のオペラ化を検討していた）は大成功だった。そして『フランチェスカ・ダ・リミニ』は彼が同世代のイタリア人作曲家の頂点にあることを確かなものにした。その後が続く彼の作品も全て好評を得ていた。堂々たる大作『ジュリエッタとロメオ』は、彼自身の指揮によりアレーナ・ディ・ヴェローナ野外音楽祭で上演されたが、この円形劇場での上演に選ばれるのは大衆的に非常に人気のある作品のみだ。では一体なぜ、ザンドナーイの作品群は忘却の淵に沈んでしまい、そして少しずつとはいえやっとな今になって、『フランチェスカ・ダ・リミニ』は一流の歌劇場に再び取り上げられるようになったのだろうか？（スカラ座もメトロポリタン歌劇場も最近このオペラを上演した）

## 激動の20世紀イタリアで歴史に翻弄された芸術家たち

その理由はいくつもあるが、真実に近いのはおそらく、第二次世界大戦後のイタリアにおいて、政治的に許すことができない立場にあったというレッテルを貼られた、ということだろう（ザンドナーイはファシズムの時代にペーザロ音楽院の院長であり、確かに体制に正式に抗議したことはなかった。しかし彼はマスカーニの自己顕示からは程遠く、はっきりとファシスト党员だった他の同僚たちの状況にもかなり批判的であったのだ）。それに加え、“ヴェリズモ主義者”のレッテルは、ザンドナーイにはほとんどまったく当てはまらなかったにもかかわらず、これもまたやっかいな



2017-18シーズン開幕定期ではザンドナーイの歌劇『ジュリエッタとロメオ』から舞曲を取り上げました

代物だった。当時は、改革、前衛、そして実験的であることが合言葉のように必要な歴史的時期だったのである。イタリアの20世紀は、オペラ的な語法への反動があり、ザンドナーイに生年は近い1880年代頃に生まれた作曲家たち(レスピーギや他のイタリアの新交響楽主義提唱者ら)、そしてそれに続いた新ウィーン楽派と20世紀後半のセリー音楽の信奉者たちが彼と対立した。ザンドナーイのようなロマンティックで退廃的な趣味のあるスタイルは、キツユな評論家が、下品で、反動主義的で、時代に逆行しているといつて攻撃するのに最適の標的であったのだ(『フランチェスカ・ダ・リミニ』は1914年に初演されているが、その一年後にはストラヴィンスキーの『春の祭典』が誕生している……これより明確な対比を想像するのは難しいだろう!)

要するに彼の作品の雰囲気は、常に神秘的な過去と伝説の合間に漂う物語であり、二つの大戦による幻滅と、際限のない残虐行為を知ってしまった時代には調和しないと感じられたのだ。それは、もはやブルジョワの幻想を糧とする時代ではなく、物語的で、イメージの喚起、実験、もしくは強烈な反抗などのためにある劇場を放棄して、責任を負った自覚的な芸術のメスにより、社会のエゴに精神的に深く切り込む時代だった。

## 誘惑的で強い意志を秘めたヒロイン、フランチェスカの物語

今日においては、展望は大きく変わってきたように思える。『フランチェスカ・ダ・リミニ』は、プッチーニの後に続くイタリアのオペラ作曲家たちを発見したい人にとって理想的な出発点となっている。事実このオペラは、イタリアの叙情的な悲劇の、情熱的で荒々しいメロディーとドラマツルギー(作劇)の魅力を表現しているが、イタリアの文学オペラの大変洗練された初期の一つの例でもあり、ガブリエーレ・ダンヌンツィオの同名の悲劇的戯曲からのほとんどカットなしの台本は、当時文化的に他に類を見ないほどの深みを持っている。

そして総譜は、想像上の中世の音楽のサウンドを呼び覚ますいくつかの意図において成功している。それは、象徴主義と文学的な唯美主義に浸り切った作曲家にのみ可能なものであり、ヴェリズモの型にはまった声楽様式から始めて、それを大変洗練された個人的な読み直しと、マスカーニ風の“叫び”の青ざめた模倣に陥らない演劇的な意味を発展させること、そしてシュトラウスとドビュッシーのハーモニーから最大限の効果を汲み上げながら、外国崇拜に陥らず表現のパレットを拡大し魅惑的な結果を導くことである。

歴史はこのオペラとその作者に、ティエ  
ト・リコルディが胸に希望を秘めていたよ  
うな栄光はもたらさなかった。偉大なるイ  
タリアのメロドラマ（音楽劇）の最後の幕  
を飾ったのは『トゥーランドット』であり、そ  
れは『フランチェスカ・ダ・リミニ』初演の  
ほんの12年後の、ザンドナーイがまさに円  
熟期の夜明けを迎えた時期に起こった。



©上野隆文

2018年11月定期演奏会 オペラ演奏会  
形式ポイト『メフィストフェレ』より

だが、本当に魅力的なこのオペラは、今  
日において再び私たちの手を取り、その独特な世界に導こうとしている。誘惑的  
で強い意志を秘めたヒロイン、ほとんどイタリアのイゾルデのような彼女が、愛のため  
に死ぬ悲劇のヒロインたちに共通する感動的な偉大さで姿を現し、うっとりする  
ような官能的な音楽の中に溶けこんで、過去と今日のプリマドンナたちに、新しい、  
抵抗することができない魅力を示す場を与えているのである。（翻訳：井内美香）

アンドレア・バッティストーニ／東京フィル首席指揮者。プロフィール等詳細は4ページをご覧ください。

いのうち・みか（音楽ライター）／学習院大学修士課程とミラノ国立大学で音楽学を学ぶ。  
ミラノ在住のフリーランスとしてオペラ、バレエに関する執筆、通訳、来日公演コーディネイ  
トの仕事に20年以上携わる。2012年からは東京在住となり、オペラに関する執筆、取材、  
講演の仕事をしている。

## <9月定期演奏会>

第942回サントリー定期シリーズ  
**9月25日(金)19:00**  
サントリーホール

第943回オーチャード定期演奏会  
**9月27日(日)15:00**  
Bunkamura オーチャードホール

第136回東京オペラシティ定期シリーズ  
**9月29日(火)19:00**  
東京オペラシティ コンサートホール

ザンドナーイ／  
歌劇『フランチェスカ・ダ・リミニ』  
(全4幕) ※公演時間は約3時間を予定しております。

指揮：アンドレア・バッティストーニ  
フランチェスカ：マリア・テレーザ・レーヴァ  
パオロ：ルチアーノ・ガンチ  
ジョヴァンニ：フランコ・ヴァッサッコ  
合唱：新国立劇場合唱団 ほか

1回券発売日	最優先発売(賛助会員・定期会員)	7月4日(土)
	優先発売(東京フィルフレンズ会員)	7月11日(土)
	一般	7月20日(月)

問合せ 東京フィルチケットサービス

Tel 03-5353-9522 (10時～18時・土日祝休・チケット発売日の土曜のみ10時～16時)

URL [www.tpo.or.jp/](http://www.tpo.or.jp/) (24時間受付・座席選択可) E-mail [concert@tpo.or.jp](mailto:concert@tpo.or.jp) (資料請求のみ)

# Program

The 130th Tokyo Opera City Subscription Concert

Thu, January 23, 2020, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

The 930th Suntory Subscription Concert

Fri, January 24, 2020, 19:00 at Suntory Hall

The 931st Orchard Hall Subscription Concert

Sun, January 26, 2020, 15:00 at **Bunkamura** Orchard Hall

Andrea Battistoni, conductor

Tomoki Sakata, piano\*

Masanobu Yoda, concertmaster

23  
Jan

24  
Jan

26  
Jan

Sergei Rachmaninov:

Piano Concerto No. 3 in D minor, Op. 30\* (ca. 40 min)

I. Allegro ma non tanto

II. Intermezzo. Adagio

III. Finale. Alla breve

— intermission (ca. 15min) —

Hector Berlioz:

Symphonie Fantastique, Op. 14 (ca. 50 min)

I. Visions and Passions

II. A Ball

III. In the Country

IV. The Procession to the Stake

V. A Witches' Sabbath

Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra

Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan ;  
Japan Arts Council

In Association with **Bunkamura** (Jan. 26)



## Artists Profile



©Takafumi Ueno

### Andrea Battistoni, conductor

The Chief Conductor of the Tokyo Philharmonic Orchestra

Born in Verona in 1987, Andrea Battistoni is a rising star conductor with an international reputation as one of the most important of his generation. Appointed First Guest Conductor at the Teatro Carlo Felice in Genova in 2013 and Chief Conductor of the Tokyo Philharmonic Orchestra in 2016.

He has been causing a sensation in Tokyo with his charisma and sensitive musicality, conducting Tokyo Phil for operas such as Nabucco, Rigoletto (Nikikai), and Aida (co-produced grand opera), and numerous symphonic works including the Roman Trilogy, Pictures at an Exhibition and Rite of Spring. His subsequent concert-style Turandot (2015), Iris (2016), and Mefistofele (2018) secured his reputation as a leading light to critics and audiences alike. He has been regularly releasing CDs with the Tokyo Phil through Nippon Columbia.

Other noteworthy engagements include: Teatro alla Scala, La Fenice in Venice, Deutsche Oper Berlin, Stockholm Opera House, Arena di Verona, Bayerische Staatsoper in Munchen, Mariinsky Theatre and world renowned orchestras such as Filarmonica della Scala, Accademia di Santa Cecilia, & Israel Phil.

His future plans include Deutsche Oper Berlin, Bayerische Staatsoper, Dutch National Opera, & Australia Opera in Sydney. His book", Non è musica per vecchi," was published by Rizzoli published in 2012, and by Ongaku-No-Tomo-Sha in Japan in 2017.

23  
Jan24  
Jan26  
Jan

23  
Jan24  
Jan26  
Jan

©HIDEKI NAMAI

## Tomoki Sakata, piano

In 2016, Mr. Sakata won the 1st Prize along with 6 special prizes at the International Franz Liszt Piano Competition in Budapest, Hungary by a unanimous vote, and became the first Asian winner in the history of this competition.

Born in Nagoya, Japan in 1993. After studying at the Tokyo University of Fine Arts and Music, he currently studies at Hanover University of Music, Drama and Media. Admitted as a youngest student in 2011, attends the International Piano Academy Lake Como in Italy as well. Scholarship student of Ezoë Memorial Recruit Foundation and Rohm Music Foundation. In 2013, aged 19, he was the youngest finalist at the Van Cliburn International Piano Competition.

He won the Grand Prix and Audience prize with 5 other special prizes at the 35th PTNA piano competition, Mozart Special Prize at Cleveland International Piano Competition. He has made concerto appearances throughout in Japan and abroad, also performs as a chamber musician.

Released debut disc in 2015. Based in Hannover and Yokohama. Received Cultural Award and Art Encouragement Prize of the city of Yokohama in 2017.

# Program Notes

by April L. Racana

Sergei Rachmaninov (1873-1943)

## Piano Concerto No. 3 in D minor, Op. 30

Although Rachmaninov is well known as a successful composer, conductor and performer, it seemed he felt he could only do his best when concentrating on one role at a time. In fact, it was during a composing drought after an unsuccessful performance of his first symphony that he was given the opportunity to focus on his conducting, for which he was received warmly. It was in this same period, when he was battling his own demons regarding his compositional abilities that he went several years with virtually no works forthcoming. Only after sessions with Dr. Nikolay Dahl, did Rachmaninov regain his compositional confidence with his Second Piano Concerto, which he finally wrote in the summer of 1900.

23  
Jan

24  
Jan

26  
Jan

The second and third movements of that work were performed in December of that same year and were received with such great success that it gave him the needed push to add the first movement. He gave the first performance of the entire Second Piano Concerto in the fall of 1901, complete with a dedication to Dr. Dahl, and displaying the duality of the pianist, as much accompanist as soloist. And although the work was received successfully, he continued to have doubts just days before its opening, due to some constructive criticism by a friend and former fellow student, which, not surprisingly, gave him pause for thought after the last public performance of one of his symphonies had been such a traumatic failure for him.

Following his work on the Second Piano Concerto, Rachmaninov was due to embark on his first concert tour of America in the fall of 1909, with the plan to unveil his latest work, the Third Piano Concerto, which is being performed by the TPO for this concert series. He was sequestered away in the family's country estate, Ivanovka, where he finally completed the piece, dating it 23

September 1909 (in the traditional Julian calendar of the time). This was only nine days before he was to leave on his journey to America, hardly enough time to prepare sufficiently for a performance of a work of such magnitude. So Rachmaninov, now replacing his composer's hat for that of his performer's tails, resorted to practicing the work on board the ship using a silent keyboard.

The *Piano Concerto No. 3 in D minor* was premiered on November 28th at the New Theatre in New York with Walter Damrosch conducting. In January of the following year, Rachmaninov performed the work again, this time at Carnegie Hall with Gustav Mahler conducting. One review in the *New York Herald* commented that 'its great length and extreme difficulties bar it from performances by any but pianists of exceptional technical powers.' In fact, in ensuing years, Rachmaninov himself made various cuts and revisions of cadenzas, perhaps in response to some of the critics.

However, many now believe those cuts to have been to the detriment of the work as a whole, so that most often the work is now performed as originally composed, with the choice of the various revised cadenzas left up to the preference of the soloist. And while Rachmaninov's Third Piano Concerto continues to be renowned for its technical and musical demands on the pianist, it has been said that the composer's intentions were not 'virtuosity for the sake of virtuosity,' (Evgeny Kissin); instead the writing displays the passion and musical genius of Rachmaninov as both composer and performer.

**Work composed:** 1909      **World premiere:** November 28, 1909 in New York conducted by Walter Damrosch with the composer as the soloist  
**Instrumentation:** 2 flutes, 2 oboes, 2 clarinets, 2 bassoons, 4 horns, 2 trumpets, 2 trombones, bass trombone, tuba, timpani, percussion (snare drum, bass drum, cymbals), strings, solo piano

## Hector Berlioz (1803-1869) Symphonie Fantastique, Op. 14

Inspired by his love for actress Harriet Smithson, after seeing her performance as Ophelia in Shakespeare's *Hamlet*, Berlioz began composing this work in 1830. Within this work one can see the influence of the famous playwright that he had long admired, as well as the musical impact that Beethoven's symphonies had had on him. Berlioz also borrowed music from his own previous compositions and took the symphony to a new level with his *idée fixe* permeating throughout, a representation, and perhaps courting, of his true love.

*Symphonie Fantastique* was premiered in December of 1830, and it seems the effects of his courting did not go unnoticed, as Berlioz and Smithson were married in 1833. The symphony went through numerous revisions through 1855, (which included revisions to the musical score up through 1832), with Berlioz himself writing *programme* notes for the various versions. In his autobiography, the composer indicated his intentions that the text of these *programme* notes “must be considered as the spoken text of an opera, which serves to introduce musical movements and to motivate their character and expression” [from *Memoirs* by Hector Berlioz]:

23  
Jan24  
Jan26  
Jan

### I. Visions and Passions

A young musician sees the woman of his dreams and falls hopelessly in love. Each time her image comes into his mind, it evokes a musical thought [represented by an *idée fixe*] that is impassioned in character, but also noble and shy, as he imagines her to be.

### II. A Ball

The artist finds himself in the swirl of a party, but the beloved image appears before him and troubles his soul.

### III. In the Country

In the distance, two shepherds play a “*Ranz des vaches*” in dialogue. The pastoral setting, the gentle evening breeze, the hopeful feelings he has begun to have—all conspire to bring to his spirit an unaccustomed

calm, and his thoughts take on a more cheerful cast. He hopes not to be lonely much longer. But his happiness is disturbed by dark premonitions. What if she is deceiving him! One of the shepherds resumes his playing, but the other makes no response.... In the distance, one can hear thunder. Solitude. Silence.

#### IV. The Procession to the Stake

Convinced that his love is unrequited, the artist takes an overdose of opium. It plunges him into a sleep accompanied by horrifying visions. He dreams that he has killed his beloved, has been condemned and led to the scaffold, and is witnessing his own execution. The procession advances to a march that is now somber and savage, now brilliant and solemn. At its conclusion the *idée fixe* returns, like a final thought of the beloved, cut off by the fatal blow.

#### V. A Witches' Sabbath

He sees himself in the midst of a frightful throng of ghosts, witches, monsters of every kind, who have assembled for his funeral. Strange noises, groans, bursts of laughter, distant cries. The beloved melody again reappears, but it has lost its modesty and nobility; it is no more than a vulgar dance tune, trivial and grotesque; it is she, coming to the Sabbath. A joyous roar greets her arrival.... She joins in the devilish orgy.... A funeral knell, a parody of the *Dies irae*. A Sabbath round-dance. The *Dies irae* and the round-dance are combined.

Work composed: 1830      World premiere: December 5, 1830 at the Paris Conservatoire

**Instrumentation:** 2 flutes (2nd doubling on piccolo), 2 oboes (2nd doubling on english horn), 2 clarinets (1st doubling on E $\flat$ -clarinet), 4 bassoons, 4 horns, 2 trumpets, 2 cornets, 3 trombones, 2 tubas, 2 timpani, percussion (snare drum, bass drum, cymbals, tubular bells), harp, strings / banda: oboe

**April L. Racana** / As a Music Specialist, Ms. Racana completed her undergraduate studies at the University of Illinois, Champaign-Urbana (BS/Piano Pedagogy) and her graduate studies at San Francisco State University (MA/Music). In addition, she was accepted as part of a post-graduate fellowship at Northwestern University's Bienen School of Music, as well as for the Japan Studies Program at International Christian University. Having been a Music Specialist teaching both in California for nearly a decade, and at Nishimachi International School where she taught for more than 25 years, she feels she has learned as much from her many students as she has taught them over more than three decades, and especially appreciates the opportunity to share her musical insights to an even wider community, as program annotator for the TPO.



## Next Subscription Concerts

## February

The 131st **Wed Feb 19, 19:00 start**  
at Tokyo Opera City Concert Hall

The 932nd **Fri Feb 21, 19:00 start**  
at Suntory Hall (Main Hall)

The 933rd **Sun/Holiday Feb 23, 15:00 start**  
at Bunkamura Orchard Hall

**Conductor: Myung-Whun Chung**

Carmen: Marina Comparato  
Don José: Alfred Kim  
Micaëla: Andrea Carroll  
Escamillo: Byunghyuk Choi  
and more

Bizet:  
"Carmen," opera  
in concert style

Single tickets  
available on the web

## March

The 934th **Fri Mar 13, 19:00 start**  
at Suntory Hall (Main Hall)

The 935th **Sun Mar 15, 15:00 start**  
at Bunkamura Orchard Hall

The 132nd **Mon Mar 16, 19:00 start**  
at Tokyo Opera City Concert Hall

**Conductor: Mikhail Pletnev**

Smetana: "Ma Vlast"

Single tickets  
available on the web

23  
Jan24  
Jan26  
Jan

## Price list

Type	SS	S	A	B	C
Single tickets	¥15,000	¥10,000	¥8,500	¥7,000	¥5,500
TPO Friends*	¥15,000	¥9,000	¥7,650	¥6,300	¥4,950

\*Tokyo Philharmonic Orchestra Friends Discount (except for SS and Students)

Tokyo Philharmonic Ticket Service

tel: 03-5353-9522 (10am-6pm / Monday-Friday)

Tokyo Philharmonic Web Ticket Service

<https://www.tpo.or.jp/en/> (Seats are selectable, credit card accepted)

# 東京フィルだより

## 2月の定期演奏会

好評発売中



チョン・ミョンフン

©上野隆文



マリエラ・ゴンザレス



キム・アルブレート



アンドレア・キャロル



チェ・ビョンヒョク

第131回東京オペラシティ定期シリーズ  
2月19日(水) 19:00

東京オペラシティ コンサートホール

第932回サントリー定期シリーズ

2月21日(金) 19:00

サントリーホール

第933回オーチャード定期演奏会

2月23日(日・祝) 15:00

Bunkamura オーチャードホール

指揮：チョン・ミョンフン

カルメン：マリーナ・コンパラスト

ドン・ホセ：キム・アルブレート

ミカエラ：アンドレア・キャロル

エスカミーリョ：チェ・ビョンヒョク

スニガ：伊藤貴之

フラスキータ：伊藤 晴

モラレス：青山 貴

メルセデス：山下牧子

ダンカイロ：上江隼人

合唱：新国立劇場合唱団

レメンダード：清水徹太郎

児童合唱：杉並児童合唱団

<オペラ演奏会形式>

ビゼー／歌劇『カルメン』(全3幕)

※公演時間は約3時間を予定しております。

## 3月の定期演奏会

好評発売中



ミハイル・プレトニョフ

©上野隆文

第934回サントリー定期シリーズ

3月13日(金) 19:00

サントリーホール

第935回オーチャード定期演奏会

3月15日(日) 15:00

Bunkamura オーチャードホール

第132回東京オペラシティ定期シリーズ

3月16日(月) 19:00

東京オペラシティ コンサートホール

指揮：ミハイル・プレトニョフ

スメタナ／連作交響詩『わが祖国』(全曲)

【料金】SS(限定プレミアムシート)¥15,000 S¥10,000 A¥8,500 B¥7,000 C¥5,500

※残席状況は東京フィルチケットサービスまでお問合せください。

お申込み・お問合せは  
東京フィルチケット  
サービスまで

Tel: 03-5353-9522 (10時~18時/土日祝休)

URL: <https://www.tpo.or.jp/> (24時間受付・座席選択可)

E-mail: concert@tpo.or.jp (お問合せ受付のみ)

2月定期演奏会 歌劇『カルメン』のあらすじ

あらすじ

19世紀、セビリヤ(スペイン)。

自由奔放なカルメンに、

まじめな連隊伍長ドン・ホセが恋をする。

ホセの許婚ミカエラが

彼の母親の病状を伝えに来たが、

ホセはカルメンが属する密輸団の一味に加わってしまう。

ホセに飽きたカルメンは

人気闘牛士エスカミーリョと恋仲に。

場面は闘牛士の広場。

エスカミーリョを闘牛場へ送り出した

カルメンの前に、よりを戻したいとホセが現れるが、

カルメンは拒絶して指輪を投げ捨てる。

エスカミーリョ勝利の大歓声の中、

逆上したホセはカルメンの胸に短刀を突き立てる。



chie / d.

## 2月定期演奏会 カルメン役マリーナ・コンパルト インタビュー

2017年フェニーチェ歌劇場でのチョン・ミョンファン指揮『カルメン』公演にて、カルメン役デビューを果たしたマリーナ・コンパルト。次回2月の定期演奏会では、マエストロ・チョンと2度目の共演となります。



——カルメンを演じるにあたって、どのような準備をしましたか？

カルメン役デビューは、私の歌手人生の中でも非常に重要な出来事の一つでした。出演が決まったと知って以降、全ての時間をこの役の準備に費やしました。フランスに行って、コーチのピアニストとフランス語の発音を学び直し、この役の歌唱技術を掘り下げること多くの時間を割きました。この試みは、私にとっては怖いものでしたが、チョン・ミョンファン氏のもとで、この役のデビューを果たせたのは、私にとって幸運でした。マエストロは、一方では私の歌唱の特徴に寄り添い、ベルカントを歌ってきた私の声楽的な精密さを最大限に活かしてくれましたし、その一方で、私自身が自分の中にあるとは思っていなかった悲劇性を見つけ出すきっかけを与えてくれました。

——カルメン役デビューから3年、役に対する見方や感じ方は変わりましたか？

何年も前にケルビーノを演じるにあたって、私は自分の身体から作り上げる必要があったのですが、その時と同じように、今回はカルメンという肉体を自分の中に見出していく必要がありました。長い時間をかけて、動きや所作について、歩き方、立ち止まり方、座り方、視線、必要ならば踊りも学びました。

今は、原点に戻っているところです。もう一度楽譜を取り出して、歌詞ごとに読み込んで、これまでに書き重ねてきた声楽や音楽に関するものや、演出や背景、ドラマツルギー（作劇法）に関する指示のメモを読み返しています。この3年間に得てきた多くの刺激をさらに結合し昇華させたものを見つけられればと思っています。

（翻訳：本谷麻子／インタビューアール：シモーネ・トメイ 2019年10月11日公開）

ほんやあさこ 東京外国語大学大学院博士課程前期修了。イタリア政府奨学生としてヴェネツィア大学に留学。言語学修士。2000年よりフリーランスのイタリア語通訳・翻訳業。オペラ・演劇・映画関係の通訳多数。オペラの舞台字幕も多く手がける。

インタビュー全文は、ホームページよりご覧ください。



## News &amp; Information

## 11月より小栗亮太がコントラバス・セクション(試用期間)に入団しました

「はじめまして、コントラバスの小栗亮太と申します。たくさんの方に支えていただき、憧れの東京フィルに入団することが出来ました。今まではプロのオーケストラで働きたいという自分の夢のために頑張ってきましたが、これからはお客様と東京フィルのために頑張りたいと思います。これからどうぞよろしくお願い致します!」



## 11月より中村元優がコントラバス・セクション(試用期間)に入団しました

「初めまして。コントラバスの中村元優と申します。歴史あるオーケストラの一員となれたことをとても嬉しく思います。私は以前から東京フィルのサウンドが大好きで、これからこのサウンドを共に創っていくことができるのだと思うと胸が高鳴ってなりません。聴く人の心を豊かにできるような音楽をお届けできるよう、日々精進して参ります。どうぞよろしくお願い致します。」



## 1月より高木祐香がヴァイオリン・セクション(試用期間)に入団しました

「はじめまして。ヴァイオリンの高木祐香と申します。東京フィルでは数年間エキストラとして演奏させて頂いていたので、この度楽団員として参加させて頂ける事を大変嬉しく思います。クラシックをはじめ、様々なジャンルの音楽に出会うチャンスがあるオーケストラなので、今からとてもワクワクしています。沢山ののお客様に音楽の素晴らしさを伝えられるよう、私自身も楽しく演奏していけたらと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。」



## Photo Reports 2019年11月～2020年1月のステージより

11月定期演奏会  
11月22日(金)  
東京オペラシティ コンサートホール  
11月23日(土・祝)  
Bunkamura オーチャードホール

指揮：ケンショウ・ワタナベ  
ピアノ：舘野 泉\*  
ラヴェル／左手のためのピアノ協奏曲\*  
マーラー／交響曲第1番『巨人』



東京フィルとの共演で東京デビューを飾ったマエストロ・ケンショウ・ワタナベ



東京フィル賛助会員と定期会員の方を対象とした公開リハーサルを行いました

### 第82回 休日の午後のコンサート<愛の挨拶> 12月1日(日)東京オペラシティ コンサートホール

指揮とお話：円光寺雅彦 チェロ：山崎伸子\*  
ショスタコーヴィチ／祝典序曲  
マリー／金婚式  
チャイコフスキー／ロココの主題による変奏曲\*  
ソリストアンコール：カザルス／鳥の歌  
クロード・フランソワ／マイ・ウェイ  
スメタナ／歌劇『売られた花嫁』序曲  
スメタナ／歌劇『売られた花嫁』より“道化師の踊り”  
ボロディン／歌劇『イーゴリ公』より“だったん人の踊り”  
ヴォルフ＝フェラーリ／歌劇『マドンナの宝石』間奏曲  
オーケストラ アンコール：エルガー／愛の挨拶



マエストロ円光寺とソリスト山崎伸子氏の夫婦共演が実現。“午後コン”名物のトークコーナーでは、息の合った掛け合いで会場を沸かせました

### 第3回 渋谷の午後のコンサート<愛の挨拶> 12月2日(月)Bunkamura オーチャードホール

指揮とお話：円光寺雅彦 チェロ：山崎伸子\*  
スメタナ／歌劇『売られた花嫁』序曲  
エルガー／愛の挨拶\*  
チャイコフスキー／ロココの主題による変奏曲\*  
ソリストアンコール：カザルス／鳥の歌  
クロード・フランソワ／マイ・ウェイ  
ベートーヴェン／交響曲第5番『運命』  
オーケストラ アンコール：エルガー／愛の挨拶



東京フィルでの夫婦初共演は、1986年2月12日の定期演奏会でのカバレフスキー作曲チェロ協奏曲第1番

## 令和元年特別「第九」演奏会

12月19日(木)東京オペラシティ コンサートホール  
 12月20日(金) Bunkamura オーチャードホール  
 12月21日(土) サントリーホール

写真=上野隆文

指揮: チョン・ミョンファン

ソプラノ: 吉田珠代 アルト: 中島郁子

テノール: 清水徹太郎 バリトン: 上江隼人

合唱: 新国立劇場合唱団(合唱指揮: 水戸博之)

児童合唱: 多摩ファミリーシンガーズ(児童合唱指揮: 高山佳子)

ベートーヴェン/交響曲第9番『合唱付』

エルガー/『戴冠式頌歌』より第6曲「希望と栄光の国」



## ニューイヤーコンサート2020

1月2日(木)

1月3日(金) Bunkamura オーチャードホール

指揮: 円光寺雅彦 ピアノ: 清塚信也\* 司会: 朝岡 聡

J. シュトラウスⅡ/ワルツ『美しく青きドナウ』

古関裕而/東京オリンピック・マーチ

ガーシュウィン/ラブソディ・イン・ブルー\*

ソリスト アンコール:

松任谷由実(編曲: 清塚信也)/春よ、来い

エルガー/行進曲『威風堂々』第1番

お楽しみ福袋プログラム

2日 グリーグ/劇音楽『ペール・ギュント』より“朝”

ヴォルフ=フェラーリ/歌劇『マドンナの宝石』間奏曲

J. ウィリアムズ/『スター・ウォーズ』より“メイン・タイトル”

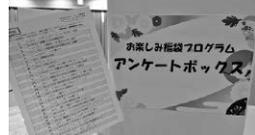
3日 J. ウィリアムズ/『ハリー・ポッター』よりテーマ

マーラー/交響曲第5番より第4楽章“アダージェット”

J. ウィリアムズ/『スター・ウォーズ』より“メイン・タイトル”

ラヴェル: ポレロ

オーケストラ アンコール: J. シュトラウス/雷鳴と電光



ご来場のお客様の投票で演奏する曲が決まる「お楽しみ福袋プログラム」。2日間とも、30曲のうちJ. ウィリアムズ『スター・ウォーズ』より“メイン・タイトル”が選ばれました

## 2020シーズン定期演奏会 今後のラインナップ

### 4～8月の定期演奏会と午後のコンサート1回券、まもなく発売!

最優先(賛助会員・定期会員)	2月8日(土)
優先(東京フィルフレンズ会員)	2月15日(土)
WEB優先(10% off)	2月15日(土)10時～2月24日(月)23時59分
一般	2月25日(火)

1回券 料金一覧	券種	SS席	S席	A席	B席	C席
	1回券(定価)	¥15,000	¥10,000	¥8,500	¥7,000	¥5,500
	東京フィルフレンズ	¥15,000	¥9,000	¥7,650	¥6,300	¥4,950

\*東京フィルフレンズ会員(入会金・年会費無料、随時受付中)のお客様はお電話での  
ご注文で各席10%オフでご購入いただけます(SS席、学生券を除く)。

## 2月

第131回東京オペラシティ定期シリーズ  
2月19日(水)19:00  
東京オペラシティ コンサートホール

第932回サントリー定期シリーズ  
2月21日(金)19:00  
サントリーホール

第933回オーチャード定期演奏会  
2月23日(日・祝)15:00  
Bunkamura オーチャードホール

指揮: チョン・ミョンフン  
カルメン: マリーナ・コンパラート  
ドン・ホセ: キム・アルフレード  
エスカミーリョ: チェ・ビョンヒョク  
ミカエラ: アンドレア・キャロル

スニガ: 伊藤貴之  
モラレス: 青山貴  
ダンカイロ: 上江隼人  
レメンダード: 清水徹太郎  
フラスキータ: 伊藤晴  
メルセデス: 山下牧子

ビゼー/  
歌劇『カルメン』(演奏会形式)  
※公演時間は約3時間を予定しております。

合唱: 新国立劇場合唱団  
児童合唱: 杉並児童合唱団

1回券発売中

## 3月

第934回サントリー定期シリーズ  
3月13日(金)19:00  
サントリーホール

第935回オーチャード定期演奏会  
3月15日(日)15:00  
Bunkamura オーチャードホール

第132回東京オペラシティ定期シリーズ  
3月16日(月)19:00  
東京オペラシティ コンサートホール

指揮: ミハイル・プレトニョフ

スメタナ/  
連作交響詩『わが祖国』(全曲)  
第1曲 ヴィシェフラド(高い城)  
第2曲 モルダウ  
第3曲 シャールカ  
第4曲 ボヘミアの森と草原より  
第5曲 ターボル  
第6曲 ブラニーク

1回券発売中

<p><b>4月</b></p> <p>第936回オーチャード定期演奏会 4月12日(日) 15:00 Bunkamura オーチャードホール</p> <p>第133回東京オペラシティ定期シリーズ 4月14日(火) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール</p> <p>第937回サントリー定期シリーズ 4月15日(水) 19:00 サントリーホール</p> <p>指揮：佐渡裕 ソプラノ：天羽明恵* 語り：原田美枝子* 合唱：晋友会合唱団* ほか</p>	<p>バーンスタイン/ ディヴェルティメント 前奏曲、フーガとリフス 交響曲第3番『カディッシュ』*</p> <p style="text-align: right;">1回券2月発売</p>
<p><b>6月</b></p> <p>第938回オーチャード定期演奏会 6月21日(日) 15:00 Bunkamura オーチャードホール</p> <p>第134回東京オペラシティ定期シリーズ 6月22日(月) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール</p> <p>第939回サントリー定期シリーズ 6月24日(水) 19:00 サントリーホール</p> <p>指揮：ミハイル・プレトニョフ</p>	<p>シCHEDリン／カルメン組曲 チャイコフスキー／組曲第3番</p> <p style="text-align: right;">1回券2月発売</p>
<p><b>7月</b></p> <p>第940回サントリー定期シリーズ 7月15日(水) 19:00 サントリーホール</p> <p>第135回東京オペラシティ定期シリーズ 7月17日(金) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール</p> <p>第941回オーチャード定期演奏会 7月19日(日) 15:00 Bunkamura オーチャードホール</p> <p>指揮：チョン・ミョンファン ヴァイオリン：服部百音*</p>	<p>ベートーヴェン/ ヴァイオリン協奏曲* ベートーヴェン/ 交響曲第3番『英雄』</p> <p style="text-align: right;">1回券2月発売</p>

問合せ 東京フィルチケットサービス

Tel 03-5353-9522 (10時～18時・土日祝休・チケット発売日の土曜のみ10時～16時)

URL [www.tpo.or.jp/](http://www.tpo.or.jp/) (24時間受付・座席選択可) E-mail [concert@tpo.or.jp](mailto:concert@tpo.or.jp) (資料請求のみ)

## 2019-20シーズン 今後のコンサート 今後のラインナップ

### セット券毎年完売の大人気シリーズ

#### 休日の午後のコンサート

14:00開演(13:15開場) 東京オペラシティ コンサートホール

第83回

〈ザ・コバケンII〉

2020年

2月11日(火・祝) 14:00

指揮とお話：小林研一郎

ピアノ：高木竜馬\*

(2018年第16回グリーグ国際ピアノコンクール優勝)



チャイコフスキー／

歌劇『エフゲニー・オネーギン』より

“ポロネーズ”

グリーグ／ピアノ協奏曲\*

チャイコフスキー／交響曲第4番

予定枚数終了

photo: 小林研一郎©K.Miura 高木竜馬©三好英輔

### 話題の新シリーズ、Bunkamuraオーチャードホールで大好評!

#### 渋谷の午後のコンサート

14:00開演(13:15開場) Bunkamuraオーチャードホール

第4回

〈コバケンの新世界〉

2020年

3月26日(木) 14:00

指揮とお話：小林研一郎

ギター：村治佳織\*



ベートーヴェン／劇音楽『エグモント』序曲

ロドリゴ／アランフェス協奏曲\*

ドヴォルザーク／交響曲第9番『新世界より』

1回券料金

S席¥5,700 A席¥4,600 B席完売0 D席完売0

1回券発売中

photo: 小林研一郎©K.Miura 村治佳織©Ayako Yamamoto

#### 問合せ 東京フィルチケットサービス

Tel 03-5353-9522

(10時～18時・土日祝休)

URL <https://www.tpo.or.jp/>

(24時間受付・座席選択可)

- \* 東京フィルフレンズ(入会金・年会費無料)入会で10% OFF!  
入会お申込は東京フィルチケットサービスまでお電話ください。
- \* 残席状況は東京フィルウェブサイトを参照  
または同チケットサービスまでお問合せください。



Chie / d.

イラスト：ハラダチエ

4回セット券大好評発売中!

2020シーズン 午後のコンサート 「夢見る頃を過ぎても」

渋谷の午後のコンサート 14:00開演 Bunkamuraオーチャードホール

第5回 4月10日(金)  
三都物語～ウィーン・パリ・ニューヨーク～  
指揮とお話：佐渡 裕



第6回 7月2日(木)  
第2の国歌を知っていますか?  
指揮とお話：尾高忠明  
ピアノ：高木竜馬



第7回 9月8日(火)  
ウィーン森で  
指揮とお話：小林研一郎  
ナビゲーター：田添菜穂子



第8回 11月25日(水)  
あの名曲アルバム  
指揮とお話：円光寺雅彦  
ピアノ：清塚信也



平日の午後のコンサート 14:00開演 東京オペラシティコンサートホール \*託児有

第17回 4月8日(水)  
三都物語～ウィーン・パリ・ニューヨーク～  
指揮とお話：佐渡 裕



第18回 6月5日(金)  
250才のベートーヴェン  
指揮とお話：小林研一郎  
ピアノ：秋山紗穂  
ナビゲーター：田添菜穂子



第19回 8月4日(火)  
夏のバッティストーニ  
指揮とお話：  
アンドレア・バッティストーニ



第20回 10月14日(水)  
夢見る頃を過ぎても  
指揮とお話：角田鋼亮  
ヴァイオリン：前橋汀子



休日の午後のコンサート 14:00開演 東京オペラシティコンサートホール \*託児有

第84回 7月23日(木・祝)  
勝利への行進  
指揮とお話：尾高忠明



第85回 9月6日(日)  
ウィーン森で  
指揮とお話：小林研一郎  
ナビゲーター：田添菜穂子



第86回 11月22日(日)  
夢見る日々～いい夫婦の日～  
指揮とお話：円光寺雅彦  
ソプラノ：市原 愛



第87回 2021年1月11日(月・祝)  
夢のつづき  
指揮とお話：三ツ橋敬子



東京フィルだより

		S席	A席	B席	C席
4回 セット券	定価	¥20,520	¥16,560	¥11,160	¥8,400
	東京フィルフレンズ <b>10% OFF</b>	¥18,468	¥14,904	¥10,044	¥7,560
1回券	定価	¥5,700	¥4,600	¥3,100	¥2,100
	東京フィルフレンズ <b>10% OFF</b>	¥5,130	¥4,140	¥2,790	¥1,890

東京フィルフレンズは入会金・年会費無料。入会お申込は東京フィルチケットサービスまでお電話ください。  
1回券はセット券で残席がある場合のみ販売します。

1回券発売日	最優先発売 (賛助会員・定期会員)	優先発売 (東京フィルフレンズ会員)	一般発売
4～8月	2月8日(土)	2月15日(土)	2月25日(火)
9～2021年1月	7月4日(土)	7月11日(土)	7月20日(月)

皆様におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。  
 新春を迎え、気持ちを新たによりよい音楽を皆様にお届けできますよう、  
 努めてまいります。

引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団 理事長 三木谷 浩史



## 賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、  
 法人並びに個人(パートナー会員)の皆様のご寄附により支えていただいております。  
 ここにそのご芳名を掲げ、改めて御礼申し上げます。

### オフィシャル・サプライヤー (敬称略)

ソニー株式会社	取締役 代表執行役 社長 兼 CEO	吉田 憲一郎
楽天株式会社	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	牛腸 栄一
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表取締役社長	池田 憲人

### 法人会員

#### 賛助会員 (五十音順・敬称略)

(株)IHI	代表取締役社長 満岡 次郎	桜美林大学	総長 佐藤 東洋士
(株)アイエムエス	取締役会長 前野 武史	大塚化学(株)	特別相談役 大塚 雄二郎
相澤内科医院	理事長 相澤 研一	(株)オーディオテクニカ	代表取締役社長 松下 和雄
アイ・システム(株)	代表取締役会長 兼 社長 松崎 務	(公財)オリックス宮内財団	代表理事 宮内 義彦
(株)アシックス	代表取締役会長CEO 尾山 基	花王(株)	代表取締役 社長執行役員 澤田 道隆
(株)インターテキスト	代表取締役 海野 裕	カシオ計算機(株)	代表取締役社長 檜尾 和宏
ANAホールディングス(株)	代表取締役社長 片野坂 真哉	キヤノン(株)	代表取締役会長 CEO 御手洗 富士夫
(株)NHKエンタープライズ	代表取締役社長 安齋 尚志	(株)グリーンハウス	代表取締役社長 田沼 千秋

(株)ケイブ	取締役会長	高野 健一	トッパン・フォームズ(株)	代表取締役社長	坂田 甲一
(医)浩仁会 矢田眼科医院	理事長	矢田 浩二	トヨタ自動車(株)	代表取締役社長	豊田 章男
コスモエネルギーホールディングス(株)	代表取締役社長 社長執行役員	桐山 浩	DOWAホールディングス(株)	代表取締役社長	関口 明
サントリーホールディングス(株)	代表取締役社長	新浪 剛史	(株)ニチイケアパレス	代表取締役	齊藤 正俊
信金中央金庫	理事長	柴田 弘之	(株)ニフコ	代表取締役社長	山本 利行
新菱冷熱工業(株)	代表取締役社長	加賀美 猛	日本ライフライン(株)	代表取締役社長	鈴木 啓介
(株)J.Y.PLANNING	代表取締役	遅澤 准	(株)パラダイスインターナショナル	代表取締役	新井 秀之
(株)滋慶	代表取締役社長	中田 豊徳	富士電機(株)	代表取締役社長	北澤 通宏
(株)ジーヴァエナジー	代表取締役社長	金田 直己	(株)不二家	代表取締役社長	河村 宣行
ジューテックホールディングス(株)	代表取締役社長	足立 健一郎	(株)プライムステーション	代表取締役	浅田 亨
菅波楽器(株)	代表取締役	菅波 康郎	丸紅(株)	取締役会長	國分 文也
相互物産(株)	代表取締役会長	小澤 勉	(株)三井住友銀行	頭取CEO	高島 誠
ソニー(株)	取締役 代表執行役 社長 兼 CEO	吉田 憲一郎	三菱商事(株)	代表取締役社長	垣内 威彦
ソニー生命保険(株)	代表取締役社長	萩本 友男	三菱倉庫(株)	相談役	宮崎 毅
(株)ソニーミュージックエンタテインメント	代表取締役社長	村松 俊亮	(株)三菱UFJ銀行	特別顧問	小山田 隆
(株)大丸松坂屋百貨店	代表取締役社長	好本 達也	(株)明治	代表取締役社長	松田 克也
高砂熱学工業(株)	代表取締役会長兼社長執行役員	大内 厚	森ビル(株)	代表取締役社長	辻 慎吾
(株)タクト	代表取締役	苗代 政治	ヤマトホールディングス(株)	代表取締役社長	長尾 裕
都築学園グループ	総長	都築 仁子	(株)山野楽器	代表取締役社長	山野 政彦
(株)テクノスジャパン	代表取締役社長	吉岡 隆	ユニオンツール(株)	代表取締役会長	片山 貴雄
東急(株)	取締役社長	高橋 和夫	楽天(株)	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
東レ(株)	代表取締役社長	日覺 昭廣	(株)リソー教育	取締役会長	岩佐 実次

## 後援会員

欧文印刷(株)	代表取締役社長	和田 美佐雄	(株)日税ビジネスサービス	代表取締役会長兼社長	吉田 雅俊
(有)オルテンシア	代表取締役	雨宮 陸美	富士通(株)	代表取締役社長	時田 隆仁
(医)カリタス菊山医院	理事長	加藤 徹	本田技研工業(株)	代表取締役社長	八郷 隆弘
(株)京王エージェンシー	代表取締役社長	大里 公二	三菱地所(株)	執行役社長	吉田 淳一
(医)だて内科クリニック	理事長	伊達 太郎	三菱重工業(株)	取締役社長	泉澤 清次
(宗)東京大仏・乗蓮寺	代表役員	若林 隆壽	三菱電機(株)	執行役社長	杉山 武史
(一社)凸版印刷三幸会	代表理事	足立 直樹			

## ご支援のお願い

2020年1月、創立109年を迎える東京フィルハーモニー交響楽団の新シーズンが開幕しました。

東京フィルは、1月から12月までの一年を通じて、皆様の暮らしと共に響きあう音楽をお届けし、心豊かな社会へと繋ぐ役割を担います。また、定期演奏会や「午後のコンサート」、特別演奏会や提携都市公演ほか多様な音楽活動を通して、国際的に活躍する演奏家や将来を嘱望された若手演奏家等と共に様々な作品に取り組み、より広く多くの皆様にオーケストラの価値を認知いただけるよう尽力いたします。そして、日本の芸術文化発展に寄与すべく、多様化するグローバルな社会において文化交流の架け橋となるよう、より一層努めてまいります。

是非とも皆様方からお力添えを賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団

## ご寄附会員の種別

種別		年会費1口
オフィシャル・サプライヤー		詳細はお問い合わせください。
法人会員	賛助会員	50万円
	後援会員	30万円
パートナー会員	ワンハンドレッドクラブ	100万円
	フィルハーモニー	50万円
	シンフォニー	30万円
	コンチェルト	10万円
	ラブノディ	5万円
	インテルメッツォ	3万円
	プレリユード	1万円

※東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「賛助会デスク」または東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。資料をお送りいたします。ご入会後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

## 【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部 (担当: 星野<sup>かのまた</sup> 鹿文)

電話: 03-5353-9521 (平日10時~18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。

## フランチャイズ・ホール、事業提携都市との連携

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。

## 文化庁「文化芸術による子供育成総合事業一巡回公演事業一」

文化庁が主催する本事業は、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。ワークショップ(少人数での事前指導)と、オーケストラによる本公演をお届けしています。国内オーケストラでは唯一、文化庁から5年間の長期採択を受け(2014~2018年度)、東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校99校、のべ43,361名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行いました。2019年度は、これまでの訪問地域に加え、関東・東海地区の小中学校36校、のべ16,000名以上の児童・生徒に音楽をお届けしました。



小学校体育館でのオーケストラ本公演

## 留学生の演奏会ご招待…留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。チケット寄附の詳細は次ページをご参照ください。



定期演奏会に東場のJICA東京研修生の皆様とチョン・ミョンフン(2019年7月東京オペラシティ定期)  
©上野隆文

## 東日本大震災“とどけ心に”特別招待シート

東日本大震災により被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。東京フィルでは2011年4月より、震災によりふるさとから避難されている方々を当団の公演にご招待しております。ご招待をご希望の方は、東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)までご連絡ください。

## ご来場いただけなくなったチケットをご寄附ください

お手元にご来場いただけなかった公演チケットがございましたら、ぜひ東京フィルへご寄附ください。「留学生招待シート」、「東日本大震災“とどけ心に”特別招待シート」として大切にに使わせていただきます。

【お問合せ・お申込み】東京フィルチケットサービス

電話：03-5353-9522(平日10時～18時/土日祝日休)

11月定期演奏会のチケットをご寄附いただきました。心より御礼申し上げます。

(五十音順・敬称略)

飯島陽子、内田菊枝、小澤 薫、小澤 勉、窪田洋子、轟 幸夫、矢口 強、C.K  
他(匿名希望19名)

## 特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンリーワンの特別企画を展開しております。

- 周年事業として大切なクライアントを招いたコンサートを開きたい
- 商品のプロモーションとして何か施策を考えたい
- 社内向けイベントで室内楽の演奏を企画したい
- 海外進出に伴いコンサート&レセプションパーティーを開きたい
- 東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい
- 新製品、サンプルを会場で販売・配布したい



東京オペラシティコンサートホールロビーにて。日本酒の試飲コーナーを設けました ©上野隆文



日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

どうぞお気軽にご用命ください。

【お問合せ】東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部

電話：03-5353-9521(平日10時～18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

## 東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約130名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督ジョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHKニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルベスターコンサート』などの放送演奏、各地学校等での訪問コンサート等により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として、高水準の演奏活動とさまざまな教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を得ている。

1989年からBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

## Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2011, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrated its 100th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 130 musicians, TPO performs both symphonies and operas regularly. TPO is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting TPO since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

TPO has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

TPO has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

Official Website / SNS <https://www.tpo.or.jp/>   



©上野隆文

# 東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督  
Honorary Music Director

チョン・ミョンフン  
Myung-Whun Chung

首席指揮者  
Chief Conductor

アンドレア・バットイストーニ  
Andrea Battistoni

桂冠指揮者  
Conductor Laureate

尾高 忠明  
Tadaaki Otaka

大野 和士  
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー  
Dan Ettinger

特別客演指揮者  
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ  
Mikhail Pletnev

レジデント・コンダクター  
Resident Conductor

渡邊 一正  
Kazumasa Watanabe

アソシエイト・コンダクター  
Associate Conductor

チョン・ミン  
Min Chung

永久名誉指揮者  
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄  
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者  
Permanent Member and  
Honorary Conductor

大賀 典雄  
Norio Ohga

コンサートマスター  
Concertmasters

近藤 薫  
Kaoru Kondo

三浦 章宏  
Akihiro Miura

依田 真宜  
Masanobu Yoda

第1ヴァイオリン  
First Violins

小池 彩織☆  
Saori Koike

榊原 菜若☆  
Namo Sakakibara

柄本 三津子☆  
Mitsuko Tochimoto

平塚 佳子☆  
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之  
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里  
Eri Urata

景澤 恵子  
Keiko Kagesawa

加藤 光  
Hikaru Kato

巖築 朋美  
Tomomi Ganchiku

坂口 正明  
Masaaki Sakaguchi

佐藤 実江子  
Mieko Sato

鈴木 左久  
Saku Suzuki

高田 あきの  
Akino Takada

田中 秀子  
Hideko Tanaka

津田 好美  
Yoshimi Tsuda

中澤 美紀  
Miki Nakazawa

中丸 洋子  
Hiroko Nakamaru

二宮 純  
Jun Ninomiya

廣澤 育美  
Ikumi Hiroswawa

弘田 聡子  
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子  
Misako Fujise

松田 朋子  
Tomoko Matsuda

第2ヴァイオリン  
Second Violins

戸上 真里◎  
Mari Togami

藤村 政芳◎  
Masayoshi Fujimura

水鳥 路◎  
Michi Mizutori

宮川 正雪◎  
Masayuki Miyakawa

小島 愛子☆  
Aiko Kojima

高瀬 真由子☆  
Mayuko Takase

坪井 夏美☆  
Natsumi Tsuboi

山内 祐子☆  
Yuko Yamanouchi

石原 千草  
Chigusa Ishihara

出原 麻智子  
Machiko Idehara

太田 慶  
Kei Ota

葛西 理恵  
Rie Kasai

黒沢 誠登  
Makoto Kurosawa

高木 祐香  
Yuuka Takagi

二宮 祐子  
Yuko Ninomiya

山代 裕子  
Yuko Yamashiro

吉田 智子  
Tomoko Yoshida

吉永 安希子  
Akiko Yoshinaga

若井 須和子  
Suwako Wakai

渡邊 みな子  
Minako Watanabe

ヴィオラ  
Violas

須田 祥子◎  
Sachiko Suda

須藤 三千代◎  
Michiyo Suto

高平 純◎  
Jun Takahira

加藤 大輔◎  
Daisuke Kato

伊藤 千絵  
Chie Ito

岡保 文子  
Ayako Okayasu

曾和 万里子  
Mariko Sowa

高橋 映子  
Eiko Takahashi

手塚 貴子  
Takako Tezuka

中嶋 圭輔  
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子  
Tazuko Hirumi

古野 敦子  
Atsuko Furuno

村上 直子  
Naoko Murakami

森田 正治  
Masaharu Morita

チェロ Cellos	コントラバス Contrabasses	オーボエ Oboes	ホルン Horns	トロンボーン Trombones	ハープ Harps
金木 博幸◎ Hiroyuki Kanaki	片岡 夢児◎ Yumeji Kataoka	荒川 文吉◎ Bunkichi Arakawa	磯部 保彦◎ Yasuhiro Isobe	五箇 正明◎ Masaaki Goka	梶 彩乃 Ayano Kajii
服部 誠◎ Makoto Hattori	黒木 岩寿◎ Iwahisa Kuroki	加瀬 孝宏◎ Takahiro Kase	齋藤 雄介◎ Yusuke Saito	中西 和泉◎ Izumi Nakanishi	田島 緑 Midori Tajima
渡邊 辰紀◎ Tatsuki Watanabe	小笠原 茅乃◎ Kayano Ogasawara	佐竹 正史◎ Masashi Satake	高橋 臣宜◎ Takanori Takahashi	辻 姫子◎ Himeko Tsuji	宮原 真弓 Mayumi Miyahara
黒川 実咲☆ Misaki Kurokawa	遠藤 柁一郎 Shuichiro Endo	杉本 真木 Maki Sugimoto	今井 彰 Akira Imai	石川 浩 Hiroshi Ishikawa	ライブライアン Librarians
高麗 正史☆ Masashi Korai	岡本 義輝 Yoshiteru Okamoto	三谷 真紀 Maki Mitani	大東 周 Shu Ohigashi	平田 慎 Shin Hirata	武田 基樹 Motoki Takeda
石川 剛 Go Ishikawa	小栗 亮太 Ryota Oguri	若林 沙弥香 Sayaka Wakabayashi	木村 俊介 Shunsuke Kimura	山内 正博 Masahiro Yamauchi	永井 玉藻 Tamamo Nagai
大内 麻央 Mao Ouchi	熊谷 麻弥 Maya Kumagai		田場 英子 Eiko Taba		
太田 徹 Tetsu Ota	菅原 政彦 Masahiko Sugawara	クラリネット Clarinets	塚田 聡 Satoshi Tsukada	テューバ Tubas	ステージマネージャー Stage Managers
菊池 武英 Takehide Kikuchi	田邊 朋美 Tomomi Tanabe	チョ・スンホ◎ SungHo Cho	豊田 万紀 Maki Toyoda	大塚 哲也 Tetsuya Otsuka	稲岡 宏司 Hiroshi Inaoka
佐々木 良伸 Yoshinobu Sasaki	中村 元優 Motomasa Nakamura	アレッサンドロ・ ベヴェラリ◎ Alessandro Beverari	古野 淳 Jun Furuno	荻野 晋 Shin Ogino	大田 淳志 Atsushi Ota
長谷川 陽子 Yoko Hasegawa		万行 千秋◎ Chiaki Mangyo	山内 研自 Kenji Yamanouchi		古谷 寛 Hiroshi Furuya
渡邊 文月 Fuzuki Watanabe	フルート Flutes	黒尾 文恵 Fumie Kuroo	山本 友宏 Tomohiro Yamamoto	ティンパニ& パーカッション Timpani & Percussion	
	神田 勇哉◎ Yuya Kanda	林 直樹 Naoki Hayashi		岡部 亮登◎ Ryoto Okabe	
	斉藤 和志◎ Kazushi Saito		トランペット Trumpets	塩田 拓郎◎ Takuro Shiota	
	吉岡 アカリ◎ Akari Yoshioka	ファゴット Bassoons	川田 修一◎ Shuichi Kawata	高野 和彦◎ Kazuhiro Takano	
	さかはし 矢波 Yanami Sakahashi	大澤 昌生◎ Masao Osawa	野田 亮◎ Ryo Noda	木村 達志 Tatsushi Kimura	
	下払 桐子 Kiriko Shimobarai	チェ・ヨンジン◎ Young-Jin Choe	古田 俊博◎ Toshihiro Furuta	鷹羽 香緒里 Kaori Takaba	
	名雪 裕伸 Hironobu Nayuki	廣幡 敦子◎ Atsuko Hirohata	重井 吉彦 Yoshihiko Shigei	縄田 喜久子 Kikuko Nawata	
		井村 裕美 Hiromi Imura	杉山 眞彦 Masahiko Sugiyama	船迫 優子 Yuko Funasako	
		桔川 由美 Yumi Kikkawa	前田 寛人 Hirohito Maeda	古谷 はるみ Harumi Furuya	
		森 純一 Junichi Mori			

◎首席奏者  
Principal○副首席奏者  
Assistant Principal☆フォアシュピラー  
Vorspieler

## 役員等・事務局・団友

### 役員等(理事・監事および評議員)

理事長	理事	監事	評議員
三木谷 浩史	浮舟 邦彦	岩崎 守康	伊東 信一郎
	大賀 昭雄	山野 政彦	海老澤 敏
副理事長	大塚 雄二郎		佐治 信忠
黒柳 徹子	小山田 隆		鈴木 勲
専務理事	篠澤 恭助		鈴木 啓介
石丸 恭一	田沼 千秋		瀬谷 博道
	寺田 琢		中矢 一義
常務理事	遠山 敦子		日枝 久
工藤 真実	野本 弘文		南 直哉
	韓 昌祐		
	平井 康文		
	宮内 義彦		

### 事務局

楽団長	公演事業部	ステージマネージャー	ライブラリアン	広報渉外部	総務・経理
石丸 恭一	市川 悠一	稲岡 宏司	武田 基樹	伊藤 唯	川原 明夫
	岩崎 井織	大田 淳志	永井 玉藻	鹿又 紀乃	鈴木 美絵
事務局長	大久保 里香	古谷 寛		千木 加寿子	
工藤 真実	大谷 絵梨奈			二木 憲史	
	佐藤 若菜			星野 友子	
	村尾 真希子			松井 ひさえ	
				安田 ひとみ	

### 団友

安藤 栄作	岡部 純	河野 啓子	佐野 恭一	長池 陽次郎	細洞 寛
池田 敏美	小樽 敦子	近藤 勉	清水 真佐子	長岡 愼	本田 詩子
糸井 正博	小山 智子	今野 芳雄	瀬尾 勝保	長倉 穰司	松澤 久美子
井料 和彦	甲斐沢 俊昭	齊藤 匠	高岩 紀子	新田 清枝	湊 貞男
岩崎 龍彦	加藤 明広	坂口 和子	高村 千代子	新田 伸雄	山屋 房子
植木 佳奈	加藤 博文	嵯峨 正雄	竹林 良	野仲 啓之助	吉田 啓義
上野 眞行	金崎 真由美	嵯峨 美穂子	竹林 陽子	坂名城 昌子	米倉 浩喜
生方 正好	川人 洋二	桜木 弘子	田中 千枝	福村 忠雄	脇屋 俊介
大兼久 輝宴	木村 友博	笹 翠	田村 武雄	藤原 勲	
大和田 皓	黒川 正三	佐々木 等	戸坂 恭毅	細川 克己	

〈発行日〉 2020(令和2)年1月23日 〈発行人〉石丸 恭一

〈発行所〉 東京フィルハーモニー交響楽団

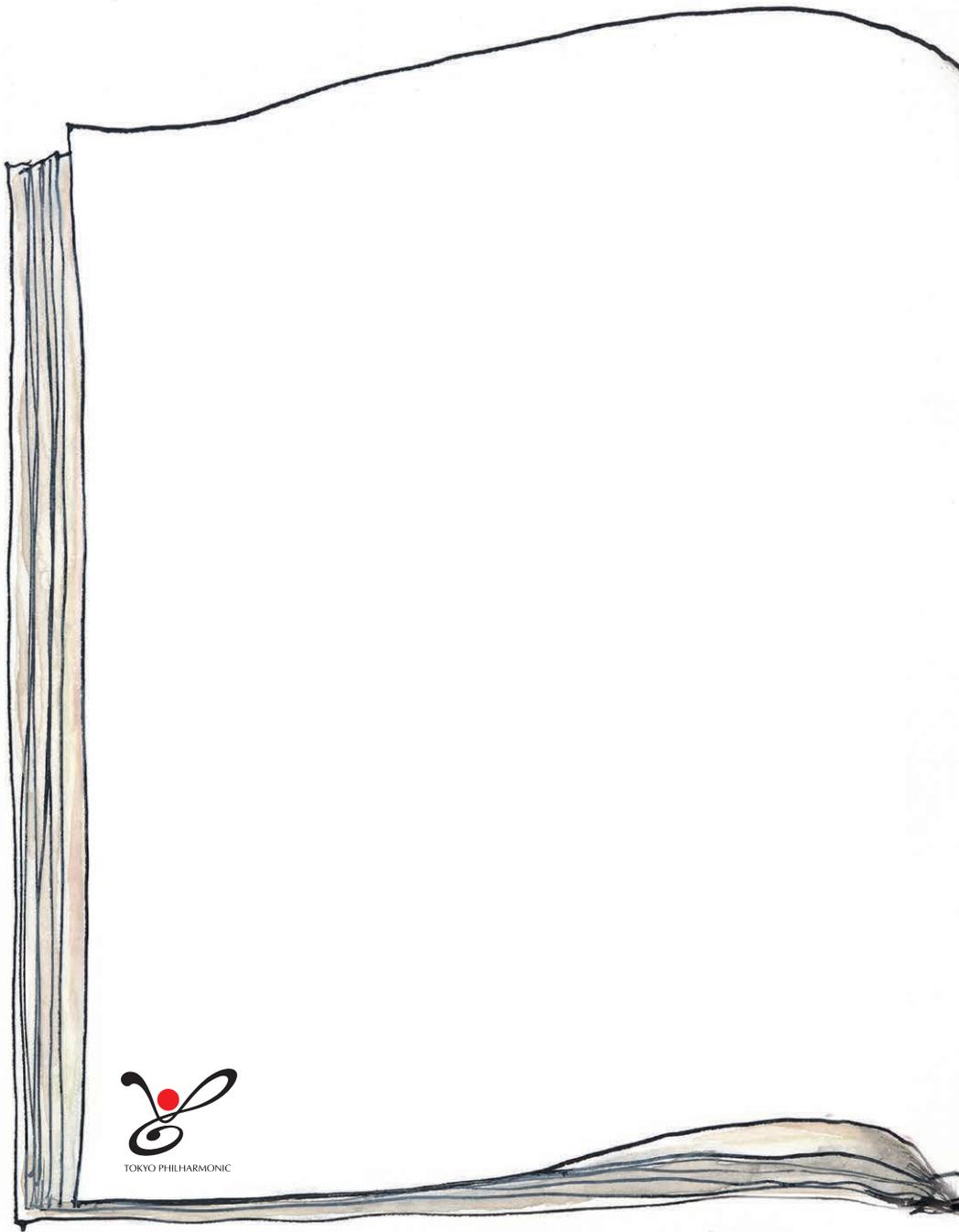
〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティアワー8F Tel 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523

フランチャイズ・ホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉市 文京区 軽井沢町 長岡市

〈デザイン〉 米田デザイン事務所 〈表紙画〉ハラダチエ 〈編集協力〉ひとま舎

〈印刷〉 歐文印刷株式会社

©Tokyo Philharmonic Orchestra \*無断転載を禁ず(非売品)



TOKYO PHILHARMONIC